

ワシントン大学短期留学プログラム 報告書

札幌校 教員養成課程 基礎学習開発専攻

4年生 渡邊 光一郎

(1) プログラムと授業について

自分にとって初めての海外であり、また留学のために特別な準備を行っていたというわけでもなかったため、最初は不安もありました。しかし、初日に簡単なリスニングとスピーキングのテストを行い各々に適したクラスで授業を受けることができたため、プログラム全体を通してまったく理解できなかつたりモチベーションが下がったりしたことはありませんでした。私の配属されたクラスでは主に会話について学び、平行して映画鑑賞や近郊地域へフィールド学習などを行いました。一応ハイレベルのクラスではあったらしいですが、上にも書いた通り英語がそこまで得意ではない私でも何とかついていけるレベルの授業になっていました。強いて言うなら会話表現やスピーキング能力がもう少しあれば更に充実した留学にできたのかもしれないと感じました。当たり前ですが飛行機を降りてからはすべての会話が英語で行われるので、リスニング能力については嫌でも向上します。



(フィールドトリップでの集合写真です。ほとんどはクラスの人と過ごすことになるので短い期間ですがとても仲良くなれます。)

(2) シアトルでの生活について / 次回以降の参加者へ伝えたいこと

まず初めに感じたのは食べ物についてです。ほとんどのものが口に合わないという人も多かったかもしれません。私もそのひとりで、僅か 3 週間の留学期間で見とれる程度に痩せました。もし不安だという方がいれば日本から食料を持って行ったほうがいいと思います。また衛生面も日本と比べると杜撰なところがあるためある程度の覚悟はしておいたほうがいいかもしれません。

街や人については、シアトルに住む人は冷たいという話をクラスの先生から聞きました。がそれでも日本の人よりもよっぽどあたたかく感じました。店員さんだろうがバスの運転手さんだろうが赤の他人だろうが話しかけてくれますし、話しかけたら対応してくれます。コミュニケーションをとることに対する抵抗が非常に少ないです。これは留学前から口を酸っぱくして言われていると思いますが、せつかく留学に行くのなら少しでも積極的にコミュニケーションを取った方がいいと思います。私は特に街で出会う人たちなどにはもう一生会うこともないのだから、と思い必要以上にコンタクトを試みました。もちろん英語の上達という面でもそうですが、その意識があるだけでひとつの思い出としてもよりよいものになると思います。気候的には、まず雨が多く、朝晩は思ったより寒く日中は思ったより暑いです。日差しも強いので、それぞれに対応できるよう服装にも留意しておく必要があります。



(クラスで一緒だったサウジアラビアンに連れて行ってもらった滝です。シアトルには自然も多く素敵な景色をいくつも見られました。)

他にも書きたいところはたくさんありますが、とりあえず必要最低限だと思う部分だけを書かせていただきました。次回以降このプログラムに参加しようと考えている人は報告書を読むだけでなく、実際に行った人と直接お話するのがいいと思います。

最後になりますが、私はこのプログラムに参加してよかったと思っています。それは英語云々ではなく、今まで知らなかった文化や価値観に触れることで人間として成長できたという確かな手応えをもって帰国することができたからです。少しでもこのプログラムに関心を持っているのなら参加してほしいと思いますし、参加するのなら私よりもずっといい経験にしてほしいと思っています。そのために私にお手伝いできることがあればぜひ声をかけてください。

本当にありがとうございました。



(最終日。)